

平成二十三年十月二十七日印刷
〒一一一〇〇二一
台東区清川一八一一
光 照 院 発 行
TEL〇三二八七二八四八七

光 照 院 だ よ り

道 詠
あみだぶつ
阿 弥 陀 佛 と
法 然 上 人

申すばかりを

つとめにて

浄土の 莊嚴
しょうじゆん

見るぞうれしき

きそくしやうよく ぶつよく ぶつよく 喜 足 小 欲 — 物 欲 から 佛 浴 へ —

光 照 院 副 住 職 吉 水 岳 彦



平等院鳳凰堂の阿弥陀如来さま

◆ 原発問題は誰のせい？

このところ、「〇〇市でホットスポット(局地的に放射線量の高い場所)が見つかった」という類の報道を繰り返し耳にします。これは、わが子に危険が及ばないようにと願う多くの親たちが、子ども遊ぶ近隣の放射線量を計って歩いた結果、発見されたものだ

そうです。原発の危険性や自然環境への影響については、これまでほとんど真剣に取り上げられることはありませんでした。それが三月の原発事故以降、放射線からわが子を守りたいという大勢の親の願いによって世間が注目するようになり、国や電力会社の対

応を批判するに至っています。

人体のみならず、自然環境にも大きな被害をもたらす可能性をもつ原発は、確かに恐ろしいものです。しかし、このおそろしい原発の建設は、一部の悪意ある人間が自己の利潤のためだけに勝手に行ったものなのでしょうか。私には、どうもそうは思えません。「資源の少ない日本を豊かにするために」「化石燃料に代わる安全で安定したエネルギーを日本のすべての人たちに」と、将来の日本経済の活性化や物質的繁栄のために、誰もが期待したものではなかったでしょうか。原発の稼働停止にともなう電気の供給量激減の折、日頃享受していた便利な生活が原発の恩恵によるものであることをみな実感させられたことと思います。同時に、そう

した物質的生活の向上を常に求めてやまないのが私たちであり、多くの人の物質的欲求が現実には反映され、形を成したものの一例が原発だったのではないでしようか。

◆喜足小欲の貪・不喜足大欲の貪

法然上人は、もろもろの煩惱の根源である貪り・瞋り・痴さを離れきらないのが現実存在として人間であり、そうした凡夫には南無阿弥陀佛のお念佛以外に救いの道はないと教えられました。まことに自己を省みれば

「美味しいものが食べたい」「新しい家電が欲しい」などなど、より良い生活を求めてやまぬ姿があります。また、貪りの気持ちを押しとどめようとすればするほど、次から次へと貪りの気持ちが湧いてくるのも私たちです。そん

な人間の性をよくご承知の法然上人は、貪は貪でも「喜足小欲の貪」までにしておきなさいとお諭しくださっています。すなわち、あるが上にもさらに欲しがら底なしの大欲を、せめて足るを喜べる小欲の生活くらいにおさえておきましょうねと、仰せなのです。

◆物欲から佛浴へ

「欲しい欲しい」の貪りの気持ちがムラムラと湧き上がってきたときには、「なむあみだぶ、なむあみだぶ」とお念佛をお称えしてみてください。自然に佛さまの顔が浮かんで、「こんな自分でもいいのかな？」と、内省する心持ちが湧いてまいります。「なむあみだぶつ」とお称えしたときの私の心は如来さまの光明に照らし出され、まるで、洗濯物の汚れが漂白剤で浮き上がるように、ガツ

ガツとした自分の貪りの気持ちに気づかされます。同時に、そんな自分が家族や友人、地域、自然、そして如来さまやご先祖さまなど、日頃からさまざま恩恵を受け、護り育てられていることに思い至り、今有ることの有難さを感じさせられます。お念佛を称え終わってみれば、こんな自分のためにこれだけ多くのものが支えとなってくれている事実が有難く感じられ、気がつけば物欲は小さくなり、心はちよっぴり温かい気持ちになつています。このように、物質的欲求（物欲）ではなく、如来さまの光明と恩徳に浴する（佛浴）生活が、足元にある幸せに気づくヒントとなるはずです。

◆今こそ利害・損得に振り回されない生き方を！

「信仰」というと、熱心な新宗教の信者さんを想起されるかも

しませんが、本当の信仰は生活の中に自然に行われるべきものであり、自分のいたらなさに気づき、他者を優しく抱擁する心を育んでくれるものです。成熟した宗教に排他的なものはありません。法然上人のお念佛の教えは、男女や人種といった生まれも、職業も罪の軽重も問わず、生活のいかなる場面でも勤めることができるものです。それゆえに、いかなる時も称えれば、如来さまと離れることはありません。

世間の物差しは、経済や物質的豊かさにおける利害や損得が基準になつています。いま多くの人がこれに振り回されて、ただあくせくと自分の生活を守るためだけに働き、時に生きる意味さえ忘れてしまっている人も見受けられます。原発の問題も、大多数の

利益のためなら、少数の犠牲はやむを得ないという世間の経済的な価値判断から生じたものではないでしょうか。

出世間、如来さまの物差しは、すべての生きとし生けるものが輪廻の苦しみから離れ、平等に心の平安を得るためにはどうしたらよいか基準となります。誰かがつらい思いをしていたならば、その人のもとに駆け寄る慈愛の心を持ち、いま有るものを喜ぶ小欲の生活を送ることが理想とされます。如来さまや菩薩さまのようにはなれない私たちですが、日頃からお念佛をお称えし、いつでも如来さまと離れない生活を送ることはできます。お念佛をお称えして常に自らを省み、如来さまに喜んでいただけるような喜足小欲の念佛生活を送ることこ

そ、利害・損得に振り回されることなく、心安らかに生きるために肝要なことであります。

十一月には、日頃からお導きくださっている阿弥陀如来さまの御徳を讃えるお十夜法要がございます。ぜひご一緒に大きな声でお念佛をお称えいただきたく存じます。

合掌

《光照院青少年育成善導会発足》

三月十一日に起こった東日本大震災の直後、光照院では檀信徒



大船渡市仮設にて臨時風船アート教室

のみなさまから託された義捐金をもとに「光照院青少年育成善導会」という団体を立ち上げました。この団体は、今回の大震災のような災害の他、事故や家庭の問題等で生活に困難を抱えている青少年のために経済的、人間関係的な援助を行い、豊かな人間性を育んでもらうことを目的として活動します。

すでに春彼岸より光照院檀信徒の協力のもと、アメやチョコレート、オムツなど、さまざまな物資を被災地域の青少年に届けるなどの活動をはじめており、現在では被災地域において活動する諸団体と連携しながら、避難所や仮設住宅における子ども会などを行っております。

今後とも長期にわたる被災地域の青少年支援を行っていく予定です。恐ろしい災害を経験した青少年が、念佛のみ教えをいただく多くの人の援助を受けて、豊かな人間性を育み、将来、その地域のリーダーとなって更に若い世代を牽引していく日が来ることを願ってやみません。継続的に活動に従事したいと考えています。今後ともご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

仮設の夕涼会にて住職のパネルシアター



《大遠忌記念知恩院団体参拝》

宗祖法然上人八百年大遠忌ご祥当にあたる今年、光照院でも総本山知恩院を含む八カ寺を三日間でめぐる団体参拝旅行を企画いたしました。当初は4月初旬の予定でしたが、震災の影響から大遠忌法要自体が延期となり、参拝旅行もともに延期となりました。しかしながら、四月にお申し込みをされた方の大半が再度お申し込みくださり、十月初旬、さわやかな秋晴れのなか京都へ出発いたしました。

参拝したお寺は宇治の平等院鳳凰堂、西山の粟生野光明寺、東山の知恩院・安養寺・青蓮院、比叡山の法然堂、大原の三千院往生

極楽院・勝林院です。「いつも旅行は晴れになるんです」という心強い晴れ女さんのおかげか、全日程を快晴のなかお参りすることができました。朝五時頃にホテルを出発する等、とてもタイトでハードな日程にもかかわらず、みなさま笑顔でお念佛を称え、如来さまにご対面されておられました。そんな楽しいなお念佛の声が如来さまに届いたのか、なんと光照院一行全員が浄土宗ご門主伊藤唯眞猊下より直々にお念佛を授かる貴重な機会を得ることもできました。十数年ぶりの光照院団体参拝旅行は、ケガもなく和やかな雰囲気の中、東京に戻り、駅でお十念をお称えして解散したかったです。

※参拝旅行にご参加くださったみなさま、初めて団体参拝旅行に参加した副住職のためにご協力を賜り、本当にありがとうございます。紙面にて略儀ながら、心より御礼申し上げます。合掌

《住職の動向》

◆平成二三年五月〜八月総本山知恩院における法然上人八遠忌八百年大遠忌法要延期に伴う後処理と十月開白に向けた準備

のため、光照院の施餓鬼法要・お盆回向の他は、知恩院山内にて業務に集中●八月初旬〜九月末脊椎間狭窄症の治療と白内障の手術のため一時光照院で静養。お盆の回向と岩手県大船渡市仮設住宅における子ども会に参加する他は、治療に専念。●十月二日知恩院における法然上人八百年大遠忌法要が開白し、約一ヶ月にわたる大遠忌法要のため知恩院の業務に邁進。

※大遠忌法要のため、住職はほとんど京都の知恩院執事の業務が中心となつているため、今回細かな動向は割愛させていただきます。



大原三千院往生極楽院ご本尊

《光照院お十夜・放生会》

日程 十一月十三日(日)

御齋 十一時三十分

法話 十二時十五分

法要 十三時

(注) 御齋は精進料理のこと

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

御仏具料寄進

為 壽誓発念信女

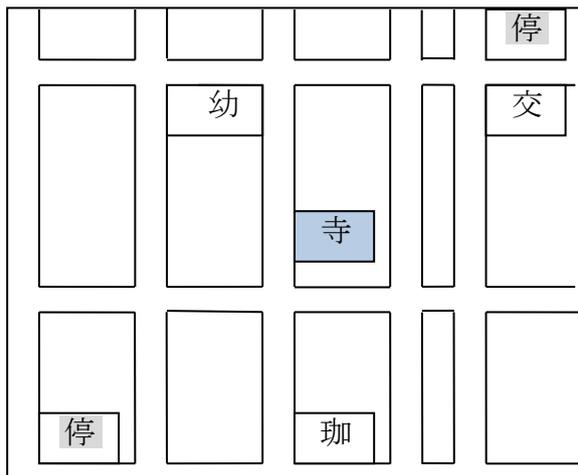
為 二十三日忌 一金貳拾萬圓

為 智岸徹念居士 五十回忌 一金壹拾萬圓

施主 郷栄一殿

《光照院へのアクセスについて》

「浅草駅」から台東区循環バス「北めぐりん」をご利用になる場合は、九番「清川一丁目」停留所で降車ください。「甲42南千住ゆき」バスご利用の場合は、「東浅草」停留所で降車ください。ちなみに、地図を示せば以下の通りです。図の上にある「停」が東浅草停留所、図の下の「停」が清川一丁目停留所です。



光 照 院
電 話 (三八七二) 八四八七
F A X (三八七五) 五四八五
都バス(甲に乗る) 東浅草下車
浅草駅前発北めぐりん
九番「清川一丁目」下車